

研究課題 (テーマ)	県内看護職・介護職向けの包括的コミュニケーション技法の教育プログラム構築 —国内外の看護系大学および医療保健福祉施設の実態調査—		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科 老年看護学講座	講師	青柳 寿弥
分担者	看護学科 老年看護学講座	教授	竹内 登美子
	看護学科 基礎看護学講座	教授	岡本 恵里
	東京医療センター	総合内科医長	本田 美和子
	ジネスト・マレスコッティ研究所	所長	Yves Ginest
	群馬大学大学院保健学研究科	准教授	伊東 美緒
	Chulalongkom University	准教授	Jiraporn Kespichayawattana
研究結果の概要			
<p>本看護学部では、「見る・話す・触れる・立つ」を基盤とした、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーション技法(ユマニチュード®)を取り入れた授業科目「看護ケアとユマニチュード」を、4年間を通して組み込んでいます。現在、ユマニチュードは、看護・介護現場で認知症の人とのコミュニケーションを円滑にする点において、その効果が実感されています。こうした中、次の2点が課題に挙げられます。①2019年度から始まる本学における授業科目「看護ケアとユマニチュード」の授業内容の充実を図ること、②学生たちの臨地実習となる県内の医療保健福祉施設の看護職・介護職に、包括的コミュニケーション技法に関する理解を深めてもらい、しいては、実践を通じた学生指導に取り組んでもらうことです。</p> <p>そこで、本研究では、包括的コミュニケーション技法(ユマニチュード)を取り入れている、国内外の看護系大学および医療保健福祉施設における教育方法とその課題を明確にし、これらの知見から、富山県内の看護職および介護職向けの教育プログラムを構築することを目的としました。</p> <p>私達は、ユマニチュードの教育を取り入れたあるいは、取り入れることを検討している諸外国の調査を行いました。タイ王国では、身体拘束等の現状の看護における倫理的課題から、看護の質の向上及び高齢者の権利擁護を目指し、ユマニチュードの普及への思いが高まっていました。しかし、タイ王国ではユマニチュード認定インストラクターが存在していないため、今後、インストラクター研修会が計画されていました。また、ポルトガルのCoimbra大学看護学部では、ケアが必要な人との関係を築くこと、コミュニケーション力を高める目的で、「Care with Humanity」(選択制2単位:2年次)を開講しています。学生は、一般的なユマニチュードの哲学と技術修得に留まらず、実例をもとにケアによる影響の分析まで行い、学びを深めていました。</p> <p>国内では、ユマニチュードを取り入れている医療保健福祉施設における管理者らを対象にインタビューを行い、ユマニチュード教育プログラムの内容および課題、これまで改善してきた事柄などを把握し、分析しようとしています。</p>			
今後の展開			
<p>包括的コミュニケーション技法(ユマニチュード)の教育プログラムの構築を確立していくことにより、県内の看護職および介護職にとって関わるのが難しい患者あるいは利用者に対しても、円滑に対応することが可能になると考えています。そのためには、国外における包括的コミュニケーション教育の動向を継続的に把握、国内の医療保健施設における調査を実施し、結果をまとめていく必要があります。これによって県内の医療保健福祉施設におけるケアの拡充を目指していきます。</p>			